



果樹特報 No.2

令和6年3月15日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

展葉期から黒星病の早期感染拡大が心配されます。散布は樹全体にしっかりかかるよう徹底してください。薬剤散布時は、温暖・無風の日を選び幹や枝に十分にかかるように散布しましょう。

(調査地区：平岡)

ふじ	平年	R6 (予想)	R5	R4	R3	R2
発芽日	4/1	3/28	3/23	4/5	3/29	3/27



【第2回 定期散布】

* 散布時期は目安です。生育状況により前後する可能性があります。

【定期散布】 散布日

____月 ____日 (____)

散布量

_____ℓ

散布時期	展葉 2～3 枚目頃 (4/6 前後)	
散布薬剤	水 100ℓ 当たり	
	展着剤 (ハイテンパワー) 10ml	
	劇ベフラン液剤 25 100ml	(展葉期、3 回)
対象病害虫	黒星病	
散布量	10a 当たり：400ℓ	
注意事項	①ベフラン液剤 25 は“劇物”です。購入の際は印鑑をご持参ください。 ②【代替】ハイテンパワーに替えてササラ 2,000 倍でも良い。 ③【うどんこ病対策】コロナフロアブル 400 倍を加用する。	

【特別散布】 黒星病対策

【特別散布】 散布日

____月 ____日 (____)

散布量

_____ℓ

散布時期	展葉 5 枚目 (4/13 前後)	
散布薬剤	水 100ℓ 当たり	
	展着剤 (ハイテンパワー) 10ml	
	パスポート顆粒水和剤 100g	(45 日前、3 回)
対象病害虫	黒星病	
散布量	10a 当たり：400ℓ	
注意事項	①【うどんこ病対策】コロナフロアブル 400 倍を加用する	

次面もご覧ください

次回発行予定

3/28 または 4/17

【輪紋病（いぼ皮病）が多発しています！】

輪紋病（いぼ皮病）の被害樹が増えています。病害は降雨によって飛散・拡大し果実に感染する危険があるため今一度散布量、順路等を確認し散布死角の無いように防除を徹底してください。

● 輪紋病（いぼ皮病）

【病徴】 1～2 年生枝：皮目がわずかに隆起した小さいいぼ

3～5 年生枝：典型的な小豆粒大の隆起したいぼを多数形成

【発生生態】 **降雨によって飛散**。4 月下旬～10 月まで続き、ピークは 6 月～8 月の降雨が多い時期。

【潜伏期間】 果実は 1～3 か月の潜伏期間を経て発病。枝では若い枝ほど感染しやすく、1 年生枝では発病までに数か月～1 年、2 年生枝以上では 1～2 年を要する。

【**防除対策**】 ①樹皮上のいぼ病斑を、褐変組織が皮部に多少残る程度に**軽く削り取る**。その後癒合剤（トップジン M ペースト）をしっかりと塗布する。（枝が完全に枯れている場合は切除する）
②生育期の防除：**重点防除期 6～8 月**。樹冠内部の枝にもかかるように（散布死角のないように）たっぷり散布する。



いぼが形成され健全部との境に亀裂が生じる。
*** 本年は写真のように黒くなっているものが多い**
(特に若木)

【黒星病 発生生態】

- ・越冬：被害落葉、芽りん片、枝病斑で越冬する。（量的に重要なのは被害落葉）

被害落葉上で冬期間中に偽子のう殻が形成、発芽期頃から飛散し感染が始まる。

感染温度は 15～20℃。潜伏期間は約 10 日。

- ・感染：一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後病斑上に形成された分生孢子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生孢子の発芽適温は 15～25℃である。
- ・感染条件：降雨と密接な関係があり、雨が多い時または葉が濡れている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現れる。
盛夏期は高温乾燥のため一時停滞するが、9 月以降から再び発生が多くなる。